

■石川数正 武将。徳川家康が一人前の戦国大名になるまで支えるも、出奔して豊臣秀吉に臣従。信濃松本藩初代藩主とされる。

いしかわかずまさ

.....1533=

この頃、三河国の小川城城主石川右馬允康正あるいは石川右近正勝の子に生まれる。石川清兼は祖父、石川家成は叔父、石川康通は従弟にあたる。

徳川家臣団のなかでも最古参の家系で、河内源氏の八幡太郎義家の六男陸奥六郎義時が河内国壺井の石川荘を相伝し、義時の三男の義基が石川源氏と称し、後に三河国に下った石川氏の与党と自称した。

今川義元登場1542 = 9歳 : 三河国岡崎城内で、松平元康(徳川家康)が誕生、

勘合船終...1547=14歳 : 徳川家康が、人質として駿河国の大名今川義元のもとへ行く途中を織田方に捕らえられて尾張に送られ、

ザビエル来日1549=16歳 : 今川・織田間の捕虜交換協定によって改めて駿府に赴いた時から家康に近侍、

織田信長登場1551 = 18歳 :

桶狭間の戦・1560 = 27歳 : 義元が桶狭間の戦いで織田信長に敗死し、家康が独立すると、義元の子今川氏真との交渉役を担い、なお今川氏の人質として駿府に留め置かれていた家康の正室築山殿と嫡男信康を、見事に取り戻した。のちに大久保彦左衛門が著した「三河物語」には、華々しく凱旋する様子が書かれている。

川中島最激戦1561=28歳 : 家康が織田信長と石ヶ瀬で紛争を起こした際には、先鋒を務めて活躍、

大村長崎開港1562=29歳 : 織田信長と交渉を行い、清洲同盟成立に大きく貢献、

大村純忠受洗1563=30歳 : 三河一向一揆が起こった際、父康正は家康を裏切ったらしいが、自らは浄土宗に改宗して家康に尽くした。石川宗家の家督は叔父の石川家成が家康の命で継いだ。これは家成が家康の従兄にあたるためでもある。しかし、家康に近習していたこともあり、戦後に家康から家老に任じられ、酒井忠次、石川家成らに次いで重用されるようになった。信康が元服するとその後見人となった。

織田信長入京1568=35歳 :

京都宣教許可1569 = 36歳 : 西三河の旗頭であった叔父の家成が遠州東部の要である掛川に転出すると、代わって西三河の旗頭となり、東三河の旗頭、のちに徳川四天王の一人として数えられる酒井忠次に対応、まさに、家康の右腕として、内政・外交・軍事に手腕を発揮して行く。

石山合戦始・1570=37歳 : 姉川の戦い、

三方原の戦・1572=39歳 : 三方ヶ原の戦い、

長篠の戦...1575=42歳 : 長篠の戦いなど、多くの合戦に出陣して数々の武功を挙げ、

上杉謙信没・1578 = 45歳 :

安土教会許可1579 = 46歳 : 家康の嫡男信康が切腹すると、代わって岡崎城代となるが、

本能寺の変・1582=49歳 : 織田信長が死去し、その後に信長の重臣であった羽柴(豊臣)秀吉が台頭すると、

賤ヶ岳の戦・1583=50歳 : *家康の命令で交渉すべく、京都で、豊臣秀吉と初対面、

長久手の戦・1584=51歳 : 織田信雄の要請に従った家康が、秀吉と相まみえることになった小牧・長久手の戦いにも参戦、信雄が秀吉と講和したため、停戦になると、その戦後交渉の窓口を務めると、日に日に隆盛を極める秀吉を目の当たりにし、徳川家が生き残って行くためには、秀吉を怒らせる前に臣従するのが良いと、家康に提言したが、東方の真田昌幸との間で軍事問題を抱える家康は先延ばし、その間、世話役を務めていた信濃の小笠原家が秀吉側になってしまう動き、家康の家臣だった小笠原貞慶が秀吉と内通していたことが露見、

豊臣秀吉関白1585=52歳 : *浜松城での重臣会議で否定された上、自らも秀吉と内通していると疑われ、家康は交渉打ち切りを決断。徳川家における信頼を失い、石川伯耆守康輝と改名して出奔し、京都で秀吉の家臣になる。秀吉から河内国内で8万石を与えられ、通称を出雲守に改め、秀吉より偏諱を賜って、吉輝と改名し、出雲守吉輝を称したと伝わる。“康”が“吉”に変わったのである。のちに、“裏切者”とか“報酬に目がくらんだ”など非難されることになるが、居場所を無くして出奔せざるを得ない状況にあったと言えよう。三河勢の軍事的機密を知り尽くしている数正の出奔は痛手であった。以後、三河勢は三河以来の軍制を武田流に改めることになった。秀吉は、真田昌幸宛に、'悪逆人(家康)を成敗するが、今年もう日が無いので明年正月15日にする'という手紙を送っていることから、秀吉のもとで最初の活躍の機会になるはずであったが、その後、近畿を中心に、(天正)大地震が襲来、秀吉の領国の被害は甚大で、戦争どころではなくなってしまい、

秀吉太政大臣1586=53歳 : 逆に、妹を家康に嫁がせたり、母親北政所を人質として差し出すなど、家康に歩み寄った結果、家康も軟化、大坂城に向いて、家康に臣従を誓い、出る幕は全く無くなってしまった。

バレン追放令 1587 = 54歳 : 秀吉の家臣として、九州平定や、

秀吉全国統一1590=57歳 : 小田原の後北条氏征伐に従軍するも、大きな活躍は無く、家康が関東に移るのに合わせて、秀吉より信濃国松本10万石(8万石説も)に加増移封され、雄大で華麗な松本城(国宝になっている5城の一つで、秀吉が造った大坂城を模したものと言われる)の築城と城下町の建設に尽力したが、城の完成を見ることなく、

文禄の役...1592=59歳 : 没したらしい。「言経卿記」に、'京都の七条河原で石川数正の葬礼が行われた'と記されている。家督を継いだ長男の康長は関ヶ原の戦いで東軍につき、戦後も、それまでと変わらず松本の地を安堵されたことから、数正を信濃松本藩初代藩主とするようになったが、10数年後、徳川幕府黎明期の財政を担った大久保長安が死去するや不正蓄財の罪に問われた際、縁戚関係にあったことから改易されてしまい、康長は豊後国に流された。江戸時代半ばに出た有名な学者で政治家新井白石は、著書「藩翰譜」によって、“数正悪人説”を流布させた張本人であるが、同書では同時に、その能力について高く評価し、徳川殿のために命を捨てようとしたことは数えきれないと称賛、'裏切者とはいえず、忠も功も無かったと断ずることはできない'と結んでいるのである。